

フクムギ情報

福井県産【大麦・小麦】の
収量アップを目指して！！

JA福井県

No.2

(ファイバースノウ・はねうもち)

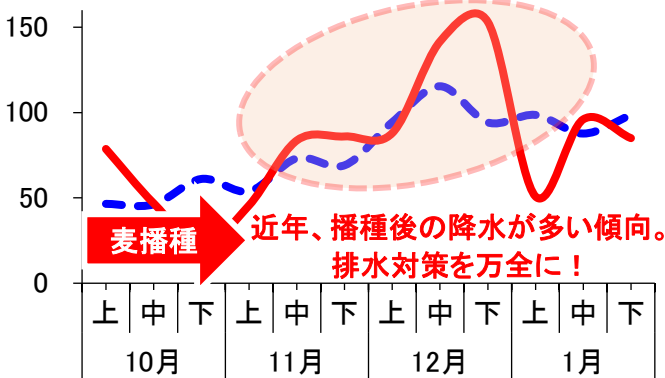
今年も高温年であった事から、水稻圃場は収穫の直前まで入水を行っており圃場内の土は柔らかく、水が溜まっている部分があると思います。排水対策を十分に行い、播種までに圃場の乾燥に努めましょう。麦の高品質・安定生産を図るためには、第一に良好な出芽苗立ちの確保が重要です。そのための適当な環境(土壌状態・播種時期・播種量)で播種作業を行いましょう。

1. 播種のポイント

～土壌状態が良い(土壌水分が低い)ときに、
丁寧な播種作業を～

播種は、「10月10日～20日」頃が適期です。「早播き」は、「茎数過剰」や「初冬～早春の肥切れ」を招き収量や品質の面でマイナス要因になるので極力控えましょう。また、「遅播き」は、低温のため発芽が遅れ、その後の生育も悪く、出穂や成熟も遅れて減収に繋がります。適期に適正な播種を行いましょう。

降水量(mm) — — 平年 — — 3か年平均(R3～5)



①播種準備

- 種子消毒(ベンレート)種子量の0.5%粉衣

②適正播種

- 播種期 : 10月上旬～中旬
- 播種量 : 6～7kg/10a
- 播種深さ : 3cm程度
- 施肥資材 : 大麦専用一発肥料
(播種機の調整) * 肥料については、各地区指定のものを使用。
- 施肥料 : 35kg～(圃場に応じて加減する)

②播種後は排水溝の手直し

- 播種作業で崩れた排水溝は、直ぐに手直し！

2. 除草剤 (使用時の注意事項)

雑草が繁茂すると、肥料のほとんどが雑草にとられてしまい収量が減ります。雑草に負けない、麦づくりを目指して、除草対策(除草剤)を効果的に使用しましょう。

①粒剤、細粒剤

- 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、適当な土壌水分の時に処理する。
- 散布ムラが生じやすいので、無風時に処理するなど均一散布に努める。
- 排水不良田や降雨(特に大雨)の前後には薬害のおそれがあるため使用しない。

②乳剤、水和剤

- 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、登録の範囲内で希釈水量を多めに散布する。
- 散布器具は念入りに洗浄する。

除草剤についてのお問い合わせは、各営農指導員まで